

1. 今年度の重点的な取組方針					
評価基準	自己評価	内容(何を、どのように。)	基幹型評価	評価するにあたって判断したことがら	市評価
1－1. 市の方針に即している	4	茅ヶ崎市地域包括支援センター事業運営方針・実施方針に基づき運営することができた。地域の関係団体との連携については、民生委員の勉強会やサロンでの普及啓発活動、行事への参加を行った。また、地域ケア会議を当初の計画どおり2回開催した。	4	市地域包括支援センター事業運営方針等に基づき、包括の運営を行っている。また、地域のネットワークづくりを意識した取り組みが行われている。	
1－2. 長期的な視点で見たときの今年度の位置付けを意識している	4	地域包括ケアシステムの構築に向けて、これまで以上に継続してサロンや茶話会、民生委員の勉強会に参加するなど地域に積極的に出向き、顔の見える関係づくりに努めたことで、結果として地域の関係機関と連携が深まった。また、法人における事業計画にも位置づけが明記されている。	4	長期的な展望としての地域包括ケアシステムの構築に向け、地域の関係者とのネットワークづくりを重点的な取組方針に据え、積極的な取組を行っている。	
2. 組織の運営体制の具体的方針					
評価基準	自己評価	内容(何を、どのように。)	基幹型評価	評価するにあたって判断したことがら	市評価
2－1. 組織体制が明確である	4	管理責任者、管理者、三職種、事務員を配置している。管理責任者は本部に常駐しているため、管理者は事業所の運営に専念できている。また、法人全体、センターそれぞれの組織図を作成している。	4	管理責任者は包括内には常駐していないが、管理責任者と管理者の連絡体制や管理責任者が包括の職員と話し合う場の体制ができている。	
2－2. 切れ目なく三職種を配置し、業務を継続するための取り組みがある	4	地域包括支援センターの円滑な運営を図るため、三職種に異動があった際も引き継ぎなど十分に行い、切れ目なく業務を遂行している。	4	職員の異動や管理者の変更があったが、業務に支障はでないように、引き継ぎ等も適正に行われている。	
2－3. 適正な職員配置をするための取り組みがある	4	選考は一定の基準(面接及び作文)のもと実施し正職員待遇で採用を行っている。基準は人物重視で、面接は主に管理責任者、管理者が行う。また、センターに事務職員を配置することで三職種がより専門性を活かした業務を行うことができる。	4	三職種がその専門性を効率よく発揮できるよう、事務職員を配置している。	
3. 職員間の連携に関する具体的方針					
評価基準	自己評価	内容(何を、どのように。)	基幹型評価	評価するにあたって判断したことがら	市評価
3－1. 三職種の専門性を生かしてチームケア実現に向けた取り組みがある	4	質の高いケア実現のために三職種内で毎朝のミーティングや月1回の職員会議などで情報の共有を行い、ケースによっては複数人で対応するなどチームでの取り組みを意識している。	4	ミーティングや会議等を通し、三職種の業務内容の理解を深め、高齢者の状況によっては二人体制で支援するなどの取り組みを行っている。	
3－2. 職員間の効果的な連携を促進するための取り組みがある	4	毎朝の申し送りや月に1回の職員会議を有効に活用し、報告・連絡・相談をそれで行っている。また、パソコンを活用し情報を共有しており担当職員が不在のときでも他職員が対応可能となっている。	4	三職種の専門性が活かされるよう、会議等で調整を行っている。担当職員が不在であってもパソコン等で情報を確認し、基本的な対応は担当職員以外もできている。	
3－3. 包括的支援事業の4業務を実施するにあたり、各職種の専門性が生かされている	3	地域ケア会議や関係機関との勉強会、地域のサロンなどでは三職種がそれぞれの役割を担い、職種間で連携して活動することができた。	4	地域ケア会議や高齢者サロン等についてはそれぞれの専門性を活かしながら意見交換を行い、効果的な地域ケア会議等が行われている。	
4. 公正・中立性確保のための具体的方針					
評価基準	自己評価	内容(何を、どのように。)	基幹型評価	評価するにあたって判断したことがら	市評価
4－1. 公正・中立性を確保するための取り組みがある	4	指定介護予防について、契約時に利用者による選択を原則とし、限定された事業者に偏らないよう一覧表にて毎月管理することで公正中立に努めている。	4	利用者に紹介する事業所については、一覧表を作成し、管理を行っている。委託率等については毎月提出される報告書でも確認ができている。	
4－2. 職員に対する意識啓発に取り組んでいる	3	指定介護予防における委託先事業所の一覧表を職員それぞれが確認することで、公正中立に事業所を選定できている。また、法人内外の研修や勉強会に積極的に参加し、朝のミーティングや職員会議の際に報告を行っている。	4	公平中立に関する研修会や勉強会に参加するなど意識啓発に取り組んでいる。またそれを職員間で共有している。	
5. 緊急時対応の具体的方針(災害時含む)					
評価基準	自己評価	内容(何を、どのように。)	基幹型評価	評価するにあたって判断したことがら	市評価
5－1. 緊急時の体制が整備されている	3	三職種全員が法人より携帯電話を支給されており、緊急時はいつでも連絡、連携し合える体制となっている。毎月利用者の緊急連絡先等一覧表を更新しており、各担当者が安否確認などの対応が速やかに行えるようにしている。また、緊急時には法人本部や関係機関への連絡体制をマニュアル化している。	3	ヒアリングで、法人から支給されている携帯電話や利用者の緊急連絡先を毎月更新している資料等の現物は確認できたが、マニュアルは確認できなかった。	
5－2. 防災・減災のための取り組みがある	3	センター内においては必要物品のリストアップ、防災ラジオの設置を行っており、年に1回地域の防災訓練に参加している。また、独居者に対して安心カプセルの配布や活用を促している。	4	災害時に持ち出すリストの作成や地域の防災訓練に参加するなど日頃からの取り組みができている。また独居高齢者にも安心カプセルの配布等を積極的に行っている。	
6. 個人情報保護に関する具体的方針					
評価基準	自己評価	内容(何を、どのように。)	基幹型評価	評価するにあたって判断したことがら	市評価
6－1. 個人情報保護に関する具体的な取り組みがある	4	専門職の守秘義務規定に基づき個人情報の取り扱いについては遵守している。また、茅ヶ崎市個人情報保護条例及び法人の個人情報保護規定に基づいた業務を徹底している。個人記録については細心の注意を図り、施錠管理や電子記録はウイルス対策を行っている。地域ケア会議等で個別事例を扱う場でも誓約書をとると共に十分な説明を行っている。	4	個人情報を保護するため、様々な取組がなされている。また、地域ケア会議等においても個人情報の管理は徹底されている。	
6－2. 職員に対する意識啓発に取り組んでいる	3	事務所内の目につく場所に個人情報保護(主要条文)と地域包括支援センターの規定を掲示し、意識づけに努めている。	3	個人情報保護規定等は掲示されているが、ヒアリングの際に、掲示場所を即答できない職員もあり、職員間での認識を高める工夫が必要である。	
7. 苦情対応に関する具体的方針					
評価基準	自己評価	内容(何を、どのように。)	基幹型評価	評価するにあたって判断したことがら	市評価
7－1. 苦情対応のための適切な体制が整備されている	3	事務所内に苦情対応マニュアルを掲示し、三職種が対応している。その内容の大小にかかわらず、管理者・管理責任者・茅ヶ崎市担当課と連携のもと円滑な解決を図るよう努めている。	3	苦情対応マニュアルは常備され、包括が苦情と受け止めたものについては記録されている。苦情の認識レベルについて高めていく仕組みが必要と考える。	
7－2. 再発防止のための取り組みがある	3	事象が発生した場合、報告書を作成し市役所へ提出している。また、法人本部に報告を行い、センター内では職員会議などで話し合うことを徹底している。対応した記録は職員間でいつでも見ることができるようにファイルを作成している。	4	包括が苦情と受け止めていることについては、職員間で共有し、再発防止のための話し合いがなされており、職員間での共有、再発防止への取り組みができている。	
総合評価(平均点)		3.56	3.81	#DIV/0!	

総合評価(自己)	概ね具体的成果が得られていると評価できる。今年度は地域へのアウトリーチ(行事などの参加、関係機関との顔の見える関係づくり)を重点的に行った。地域ケア会議では個別課題解決から地域づくりに関連するテーマに範囲が及び、有意義な話し合いをすることができた。日々の報告・連絡・相談やセンター内でのコミュニケーションが図れていると評価できる。防災対策として地域の防災訓練などに毎年参加しているが、地域包括支援センターとして有事の際にどのように行動するかマニュアルを定期的に確認し、いろいろなケースを想定したシュミレーションを行う必要がある。
----------	--

総合評価(基幹型)	平成27年度の重点的な取り組み方針に即して、関係者や高齢者等の集まる場に積極的に出向き、信頼関係を深めている。その結果、三職種間で専門性を活かしながら、話し合いを重ね取り組んだ地域ケア会議や認知症サポーター養成講座等において、地域の方々の活発かつ前向きな発言を引き出すことができたものと認識している。また、苦情の再発防止に向け職員間で話し合い、共有を徹底していると判断した。地域の防災訓練に参加すると共に独居高齢者等に対しては安心カプセルの活用を促すなどに取り組む一方、防災についての課題を明らかにしていることから、防災・減災に対する意識が高いものと評価している。 28年度は、27年度の取り組みを継続して更に地域に根ざした活動を目指していただくと共に、有事の際の地域包括支援センターの役割についての課題解決に向けた検討を期待している。
-----------	---

運営協議会の意見	
----------	--

総合評価(市)	
---------	--

運営状況レベルの内容	評価点
求められる評価基準を満たしており、具体的成果が見られる	4
求められる評価基準を満たしている	3
求められる評価基準を満たしていないが、取り組みは行っている	2
求められる評価基準を満たしておらず、取り組みも行っていない	1